

優秀賞(学生部門)

堀口 菜々ほりぐち なな

寄り添う心

私は臨床実習りんしょうじじしゅうに行き、色んな業務を見させていたただく中で、血液透析業務けつえきとうせきぎょうむでの患者さんと臨床工学技士りんしょうこうがくぎしとの関わりが一番印象に残っています。

臨床実習に行く前までは、血液透析業務は週3回、1回4時間の透析とうせきにおいて、毎日同じ業務の繰り返しであり、患者さんも淡々と透析を受けているというイメージを持っていましたが、実際の現場を見ると、一見同じように見える業務でも、日々の患者さんの状態によって内容が変化し、透析を受けている患者さん一人一人の表情がとてにこやかであることに気づきました。そこで、どうしたらこのように雰囲気の良い透析室とうせきしつになるのだろうかと疑問を持ちましたが、



臨床実習を受けていくうちに、それはコミュニケーションのとり方であることに気づきました。

臨床工学技士の方々は、日々のあいさつや会話の中で患者さんの不安を少しでも取り除けるように、一人一人に合わせた接し方をしており、その中で日々の患者さんの状態を正確に把握していました。その時に、実習指導者さんに言われて特に印象に残っている言葉は、「血液透析業務は血液データや心胸比しんきょうひのデータの推移など長期にわたって関わる事ができたり、穿刺せんしの腕次第では患者さんとの強い信頼関係を築けたりと、決してやりがいのない業務ではなく、患者さんに寄り添うことができる業務である」ということです。

穿刺が難しい患者さんにはエコーを使って確実に穿刺することや、透析装置とうせきせいちゅうの正確な操作など、患者さんに安全かつ最適な治療を提供するために医療スタッフ一丸となって患者さんをサポートしている姿を見て、患者さんとの信頼関係を築くためにはコミュニケーションをしっかりと、患者さんに寄り添うことが大切だと身をもって感じました。

